

木曽地域の整備方向

地域農業の特徴と農地の整備状況

○地域農業の特徴

木曽川沿いの平坦地や谷間に形成される農地では、水稻のほか地元食文化として根付いてきた「そば」や「赤かぶ」等の栽培が行われ、近年は、「インゲン」や「えごま」等の栽培にも力を入れて取り組んでいます。

また、木曽町や木祖村の高冷地に広がる畑地帯では、冷涼な気候を生かした「御嶽はくさい」や「トウモロコシ」の生産が盛んです。

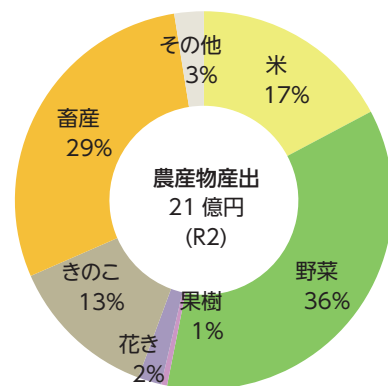
畜産業は、高品質な「木曽子牛」を全国に供給する産地として知られています。



中山間地域の未整備農地



高冷地に広がる整備された畑地帯



○農地等の整備状況

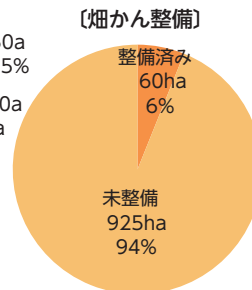
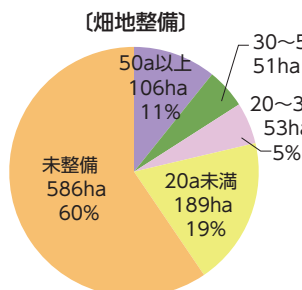
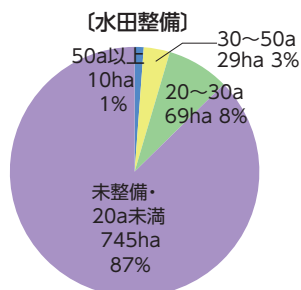
木曽地域で比較的にまとまりのある水田地帯については、中山間総合整備事業により基盤整備が進められていますが、整備率は県平均を大きく下回っています。

また、木曽町開田高原や木祖村西山地区の畑地帯では、畑地帯総合整備事業等により基盤整備とともに農地集積が進められ、整備率は県平均を上回っています。

近年では、木祖村の活性化施設など生活環境基盤の整備や、南木曽町の小水力発電施設の整備が進められるとともに、防災減災対策として、上松町・木祖村に防災無線等情報基盤が整備され、木祖村の大平ため池には、監視カメラと水位計が設置されるなど ICT の導入により、ため池の遠隔監視が可能となりました。



整備された水田 (上松町野尻地区)

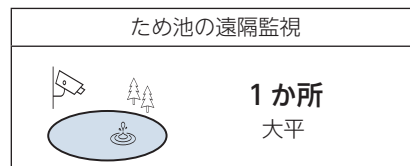


「御嶽はくさい」の収穫作業



ため池監視システム (木祖村大平ため池)

【農業農村整備事業による ICT の導入状況】



地域の現状と課題

- ▷ 農業者の高齢化や担い手不足の進行に加え、野生鳥獣被害等により農地の荒廃化が進んでおり、農地や農業用施設等の維持管理が困難になっています。
- ▷ 農業用ため池の老朽化が進んでいるため、今後発生が予想されている大規模地震への対策が必要です。
- ▷ 急峻な谷間の集落では、豪雨による土砂災害の危険性が高いことから、山腹水路などの防災・減災対策が必要となっています。
- ▷ 国道や鉄道を横断する老朽化した農道橋や水管橋について早急に対策を講じ、甚大な被害を未然に防止する必要があります。



堤体の浸食が進む農業用ため池（南木曾町）



老朽化が進行する跨線農道橋（南木曾町）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

○農業水利施設の長寿命化計画に基づく整備箇所数

現状（R3年度）

→

目標（R9年度）

－

3か所

整備方向

- ▷ 老朽化により利用困難となった農業水利施設について改修を進めます。



洗堀が進み取水困難となった頭首工（木曾町）



堰堤の欠損により取水困難となった頭首工（木祖村）

II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数	5 箇所		9 箇所
○河川・道路・線路を横断する農道橋・水路橋などの耐震工事の整備箇所数	1 箇所		4 箇所
○農業用水を活用した小水力発電の設備容量	34.4kW		366kW

整備方向

- ▷ 国道や鉄道を横断する水管橋や農道橋の大規模地震時における落橋等の被害を未然に防止するため、耐震工事を実施します。
- ▷ 豪雨時の溢水被害を防止するため、農業用水路の改修を行います。
- ▷ 再生可能エネルギーへの転換を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設の整備を支援します。



耐震工事を実施する野又水管橋 (木曽町)



耐震工事を実施する上越野跨線橋 (南木曽町)



吉野小水力発電所 (上松町)

III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○多面的機能を維持・発揮するための活動面積	271ha		268ha

整備方向

- ▷ 農村の多面的機能の維持・発揮と生産活動の継続を図るため、地域ぐるみで行う共同活動を支援します。



地域おこし協力隊も参加した草刈り作業 (大桑村)



地域住民も参加した水路の泥上げ (木祖村)

TOPICS

『笑顔あふれる「源流の里」木祖村』の実現
 中山間総合整備事業 木曾川源流の里地区 荻原工区活性化施設の事例

『木祖村農産物加工センター』

木曾川源流の里地区の荻原工区活性化施設は、道の駅「木曾川源流の里 きそむら」に隣接して建設され、令和元年11月に『木祖村農産物加工センター』として開所しました。

本施設は、延床面積286.2m²の建物内に研修室のほか、調理室、漬物や菓子の製造室他を備え、様々な農産物の加工開発や生産を通じた地域活動等が可能な施設となっています。

令和2年8月には、加工施設で開発した「おやき」、「えごまドーナツ」、「紫花豆の甘煮」、「ひたし豆」、「きやらぶき」等が『木祖村ブランド認証商品』に認定され、知名度アップに貢献！！

地元で生産される農産物を活用した特産品開発、6次産業の推進により、地元農産物の生産拡大はもとより、地域における遊休荒廃農地の解消や雇用の拡大にも繋がっています。

今後は、本施設を活用した地域・都市交流により一層の地域振興が期待されています。

加工品 (木祖村ブランド認証商品)



【木祖村ブランド認証商品】

村内で生産、加工製造された農林水産品及び特産品を独自の基準（村の風土と歴史に育まれた木曾ならではの魅力あるもの、品質の信頼性、安定供給等）により木祖村ブランドとして認証する。



市民タイムス 提供

